

12月

12.01.2024

行田市立学校給食センターひまわり

ひまわり通信



はじめに



日頃より学校給食につきまして、御理解をいただきありがとうございます。年1回発行するひまわり通信では、学校給食センターの取り組みについてご紹介します。ぜひご一読ください。

さらに安心・安全な給食を目指してまいりますので、今後とも御協力をお願い申し上げます。

能登応援給食を提供しました！

令和6年1月1日に発生した能登半島地震では、能登地域を中心に多くの方が被害に遭われました。

行田市では、一日も早い復興を願い、今年の田んぼアートのテーマを「能登復興応援」としました。行田市が「和装文化の足元を支え続ける足袋蔵のまち行田」として登録されている日本遺産に能登地域を代表とする祭りである「キリコ祭り」も登録されていることから日本遺産でのつながりも踏まえて、キリコ祭りのデザインとなりました。

これにあわせて学校給食でも能登の食材や食文化に触れてもらう「能登応援給食」を10月1日・2日に提供しました。

〔献立〕

もち麦ご飯・牛乳・焼き海苔（田んぼアートデザイン）
いしる入り鍋・シイラのかりん揚げ・きんぴらごぼう

献立のご紹介

焼き海苔



焼き海苔のパッケージには、今年の田んぼアートの写真を印刷しました。

いしる入り鍋



いしるとは、能登半島で古くから造られている伝統的な調味料で、秋田県の「しょつつる」、香川県の「いかなご醤油」と並ぶ「日本三大魚醤」のひとつです。

原材料となるイカ等の魚介を内蔵ごと塩漬けにして、数年ほど発酵・熟成させて造られます。独特のクセとにおいが特徴的で、魚介の旨味が溶け込んでいます。

シイラのかりん揚げ



シイラは石川県や富山県沖で獲れた白身魚です。給食では、でんぷんをつけて揚げ、甘辛いたれを絡めた「シイラのかりん揚げ」として提供しました。



巨大な灯籠が乱舞！心ゆさぶられる祭り



灯り舞う半島 能登 ～熱狂のキリコ祭り～

能登応援給食で焼き海苔のパッケージに印刷した今年の田んぼアートは、能登半島で伝統的に行われている「キリコ祭り」のデザインが採用されています。江戸時代から連綿と続く伝統的な祭礼である「キリコ祭り」についてご紹介します。



「キリコ」とは

キリコとは、キリコ祭りの御神灯で、神輿の先導役として掛け声をあげながら町内を練り歩きます。キリコは「切子燈籠」の略で、高さ2mの小型のものから15mの大型のものまであり、代表的な形は背の高い直方体状の行灯ですが、その大きさ・形は地区・地域によって様々です。



能登半島の伝統行事「キリコ祭り」

キリコ祭りは、灯籠神事であり、7月から10月の約3か月間、各地の氏子たちによって行われます。キリコ祭りは、七尾市、輪島市、珠洲市、志賀町、穴水町、能登町の合計約200もの地区で行われ、能登の人々の生活に溶け込み、今なお盛んに行われている伝統行事です。



地区・地域で異なる魅力

「キリコ祭り」と総称されていますが、その内容は地区・地域によってさまざま、キリコの数や形状、行程等、各地区・地域それぞれの特徴を有します。能登町で行われるあばれ祭りでは、初日に約40基のキリコが巡回します。二日目は、担ぎ手たちが神輿を海や川、火の中に放り込み、存分大暴れ。漆塗りが有名な輪島市で行われる輪島大祭では、総漆塗りの豪華なキリコが練り歩きます。珠洲市で行われる寺家キリコ祭りでは、県木である能登ヒバでつくられた高さ16.5m、重さ4tの豪華絢爛な巨大キリコが市内を巡回します。キリコ祭りは、一つの地区・地域だけを観るのではなく、複数のキリコ祭りをめぐるのも楽しみ方のひとつです。



©石川県観光連盟

行田市立学校給食センター

〒361-0036 行田市大字樋上195-2

☎048-553-1114

🌐 <https://www.city.gyoda.lg.jp/>

